

学校教育高度化専攻 教職開発コース・教育内容開発コース

科目番号：301-28 302-39	担当教員：藤江 康彦	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：授業研究と教室談話分析		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・基礎研究) 教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)	
Research on Teaching and Classroom Discourse			
授業の目標・概要 ：教室談話分析の理論や事例を参照し理解を深めながら、 教室談話 に着目をした授業研究のあり方、手法、課題を検討、追究していく。			
授業計画 ：第1回～第5回：教室談話分析の理論、第6回～第10回：教室談話分析の方法と事例、第11回～第15回：教室談話に着目した授業研究のあり方の検討			
授業の方法 ：教室談話研究や授業研究に関する国内外の文献を読み進め、内容を理解するとともに議論を行い検討する。			
成績評価方法 ：文献の報告、議論への参加、期末レポートによって総合的に判断する。			
教科書 ：授業の初回で指定する。			
参考書 ：秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会、秋田喜代美（編）『教師の言葉とコミュニケーション』教育開発研究所			
履修上の注意 ：特になし。			
関連ホームページ ：特になし。			
その他 ：特になし。			
本学他研究科学生		履修可 (—名まで)	／ 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (—名まで)	／ 履修不可

学校教育高度化専攻 教職開発コース

科目番号：301-29	担当教員：藤江 康彦	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：授業研究論文指導		授業科目：教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	
Mentoring Seminar of Research on classroom lessons			
授業の目標・概要 ：授業や学習指導について教育方法学や教育心理学の視点から、学校において子どもや教師が「学ぶ」ことや「育つ」ことをどのようにみとり、研究として論文化していくのかを中心に議論し、実証的な論文作成に向けた指導を行う。			
授業計画 ：授業の実践や理論に関する研究についてのレビューを行い、自らのリサーチクエストを明確にするため。論文執筆に向けた調査や文献収集の方法を身につける。			
授業の方法 ：参加者は、自らの研究テーマについてのプレゼンテーションを行い、その発表内容について、参加者全員で集团的に検討を行う。			
成績評価方法 ：授業におけるプレゼンテーションの内容、授業への貢献度、論文の執筆状況にもとづいて評価する。			
教科書 ：指定しない。			
参考書 ：授業で紹介する。			
履修上の注意 ：履修者は藤江の指導学生に限定する。			
関連ホームページ ：			
その他 ：			
本学他研究科学生		履修可（ 名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（ 名まで）／	履修不可

学校教育高度化専攻 教職開発コース・教育内容開発コース

科目番号：302-41	担当教員：斎 藤 兆 史	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：外国語教育論文指導		授業科目：教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	
Dissertation Research in Foreign Language Education			
授業の目標・概要：外国語教育をテーマとして論文を執筆する際に必要となる知識（先行研究や文献）や技術（問題の設定の仕方、論証の仕方、注や文献一覧の書き方など）に関する指導を行なう。 授業計画：履修者との相談によって決める。 授業の方法：個別指導を行なう。 成績評価方法：論文の進捗状況、研究内容、成果などを総合的に判断して評価する。 教科書：特に指定しない。 参考書：履修者それぞれの研究テーマに応じて指示する。			
本学他研究科学生		履修可（ 名まで） /	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（ 名まで） /	履修不可

科目番号：301-30,302-40	担当教員：斎 藤 兆 史	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：外国語教授法研究		授業科目： 教職開発・理論研究（教職開発・発展研究） 教育内容開発・理論研究（言語教育・発展研究）	
Methodology of Foreign Language Teaching			
授業の目標・概要：さまざまな外国語教授法（主に英語教授法）がそれぞれ拠り所としている理論を分析し、さらに日本の外国語教育との関連においてその妥当性を議論することにより、外国語教育理論に対する理解を深める。 授業計画：初回の授業において外国語教授法の歴史を概観したのち、毎回違った教授法を取り上げ、その拠り所となる理論を検証する。 授業の方法：基本的に演習形式。それぞれの教授法および理論について担当発表者を定め、発表ののちに質疑応答や討論を行なう。 成績評価方法：発表、授業への取り組み、最終レポートを総合的に判断して評価する。 教科書：プリント等を使用。 参考書：A.P.R. Howatt (with H.G. Widdowson), <i>A History of English Language Teaching</i>, Second edition, Oxford: Oxford University Press, 2004. 履修上の注意：担当発表者以外の履修者も必ず資料を読んで予習をし、積極的に討論に参加すること。			
本学他研究科学生		履修可 （5名まで）	／ 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 （5名まで）	／ 履修不可